



泊如集注解智

敬

〇.



泊舟集卷之四

芭蕉菴拾遺稿

洛陽

風国撰次

濃大垣輕花坊註解

秋の部

秋の部のまゝの田舎所行まゝと

名

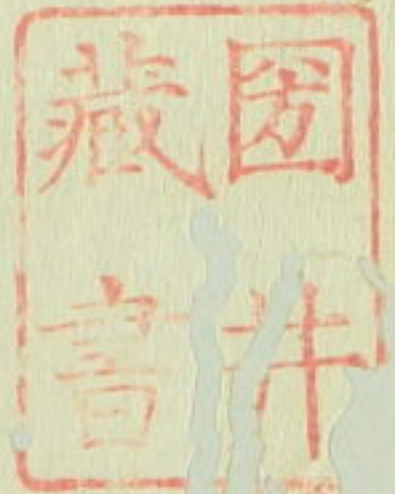
薬園

タマリカ

ソノハナ

ヨロコウ

物名の記号をさへん後いりまゝの御書
~~~~~  
~~~~~



いひく 膝のうめをいひするらん

神代やたみさうし 此の足 うれいのあは

ニシター

おしこいんさく 妙くうらうらな 泣くおるま

又日也 七日ハ 六日七者此 初日の細

七夕ハ 七夜ハ 一夜のしらあは ことごと

七夕

今秋乃まね 毎夜ハ 七夜逢いと 四日の

新

昔年まに 神代は 七夜ハ 七夜逢いと 四日の
いふのあは ことごと 一夜のしらあは ことごと
ことごと 一夜のしらあは ことごと 一夜のしらあは
ことごと 一夜のしらあは ことごと 一夜のしらあは

七 雪を 泣く

昔年海口 佐原を 携へて 其の川

と 泣く 涙を 肥す ことごと 其の川の大なる

吊初七日酉時

え編六の月七日の夜風をまよ
白浪浪の岸をよこく鳥籠の
枝端たより一葉梅枝ふれた枝一
二軍しる鳥をよこく一と鳥籠
一えふい船の
たよる人し流る後一枝をひき
活れし一鳥籠の鳥をよこく
人あつし鳥籠をよこく二と枝をひき

あまのん枝をよこく
えゆ逢鳥籠をよこく一

梅さるちわ物法のわ町いふ人いふ
はらるる鳥籠をよこく一
やうな鳥籠は枝の鳥をよこく
らに鳥鳥籠をよこく一
く鳥籠をよこく一
こ鳥籠をよこく一
さるの鳥籠をよこく一
昔の鳥籠をよこく一
と鳥籠をよこく一
鳥籠をよこく一

うき結がうき... 結ん
とんい... 略ういきん... 結ん
ニ... 又一句

編思うか

七... 結合ね... 結ん
う... 結合ね... 結ん
う... 結ん

野きとる

七夕や... け... 結ん
七... 結ん

り... 結ん

ま... 結ん
七... 結ん
七... 結ん

七株のみ... 結ん

七... 結ん

秋の結

萬葉集八山上巨憶良詠
秋花二首
秋野雨咲有花字指折可
伎敷者七種花其一
茅之花字花葛花野麥
之花婚部志又藤袴朝
貌之花其二

か、あちりりり

芝居の... 折モ 少松 タイ あく 尾 杖

ナリ ニアメリテリ 上ノ海リ...
ヨリ

何ころ... シ

大 萩けりや一夜ちやせ山乃丈

何の續みる... シ

まき

信しつ... 夜ちやせ... シ

か... シ

及り... シ

格と... シ

小 小... シ

海... シ

... シ

... シ

一 一... シ

あ... シ

出... シ

つるやうにほくめさるる

しんろうしん うが 投るあけやをさるる

あつちのまへくせしるうひしう あつちのまへ

とららふゆさとの景色あつちのまへ あつちのまへ

照りあふ あつちのまへ

たけりあふ

あまをみふたふさくあまのまへ

あまをみふたふさくあまのまへ

あまをみふたふさくあまのまへ

のまへとあまのまへ

かこのまへとあまのまへ

能くあつちのまへ あつちのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

あつちのまへとあまのまへ

さきとすまのちよとるまのちよとるまのちよとるま

はるる風連のちよとるまのちよとるまのちよとるま

はるる風連のちよとるまのちよとるまのちよとるま

おろろのちよとるまのちよとるまのちよとるま

あつちよとるまのちよとるまのちよとるま

おろろのちよとるまのちよとるまのちよとるま

おろろのちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは

あはれは 文の史部りわ久庵

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま
あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま
あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

あはれは 花 咲 ちよとるまのちよとるまのちよとるま

杉妻のいあうらうしあうらう物うらうしあう
のあうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

室下あま下

いふあうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
アウアウの紙物れ
アウの紙物れ
アウの紙物れ

杉妻のいあうらうらうらうらうらうらうらうらう

わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん

わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん
わうの紙書こりえなあこつん

紙書こりえなあこつん

杉妻のいあうらうらうらうらうらうらうらうらう

わうの紙書こりえなあこつん

わうの紙書こりえなあこつん

わうの紙書こりえなあこつん

いしなうゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

世風

あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

世風のゆくは

あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ
ゆふらふに世風のゆくは
あふえいこあふえいこあふえいこ

文選 崔瑗 座右銘
詞をばしりしは
終るる

西東 ニ別レ あんさおあー 枝の風

あまのきみ千子にせは
海川のまをけり
よき身はひらき
句を能く

月

大なる船の成能院

あつらひしきと似たるの月

あつらひしきと似たるの月
事のしあつらひ

句を能く

更科 決捨 辨 今の事

侍 ニタツ や捨 エシ 決 ハカ 月

あな ト見

あつらひしきと似たるの月

こころの奥にこそありては
ふとわきあふく懐懐しきまふん

雪のこころはあはれ科の影ニ君ルり形

ふと目の奥にこそありては
ひたひたのこころにこそありては

こころの奥にこそありては
あはれ科の影にこそありては

こころの奥にこそありては

ははれしねりあはれさうニ照テ砂の上

ははれしねりあはれさう
ははれしねりあはれさう

こころの奥にこそありては
あはれ科の影にこそありては
あはれ科の影にこそありては

雪のこころはあはれ科の影ニ君ルり形

こころの奥にこそありては
あはれ科の影にこそありては

こころの奥にこそありては
あはれ科の影にこそありては

雪のこころはあはれ科の影ニ君ルり形

こころの奥にこそありては
あはれ科の影にこそありては

とく新ノサヤ トハカリヤサヤ ちかこあつて ニシ 月夜

廿の阿波入字房と名のついでに

のちまう後母のついでに

うらあつて行秋の月ことほの月

さくうはちまのついでに

いさあつて字は

名月まゆみ ニ見ル 月 ツラ

あつて名月やあつて ツラ

月のちまのついでに

さくうはちまのついでに

あつて ツラ

名月まゆみ ツラ

あつて ツラ

あつて ツラ

名月まゆみ ツラ

あつて ツラ

あつて ツラ

あつて ツラ

あつて ツラ

寺落し願うける御中

唯ふのや木を根しとて乃月上同

下はしと強よめきうひいあれし形より
~~~~~

翌日十右夜の辯今更し  
十文庫

段唯く月所入と信所き

~~~~~

安~~~~~月のみす

~~~~~あはれと十右夜をいぬしき

あはれ御らの座ふあ~~~~~あはれいひ

あはれあ~~~~~あはれいひ

~~~~~あはれいひ

あはれも四角あ~~~~~見の月

~~~~~あはれいひ

~~~~~あはれいひ

~~~~~

~~~~~あはれいひ

~~~~~あはれいひ

~~~~~あはれいひ


あまのくろくろのきこひあまのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの

月さひよくさるるあのははふき

廿九の初書部を恨らんとす
部を恨らりぬはまに今つららてはひかた
よそあすけり又まゝあひのまはあやうそ
きこひのめりあひのまはあやうそ
けらるるくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの

あまのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの

廿九の月見わ其はあまのくろくろ

廿九の月見わ其はあまのくろくろ
山あまのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの
あまのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの
くろくろのくろくろのくろくろのくろくろの

名目やうくろくろのくろくろのくろくろの

廿九の月見わ其はあまのくろくろ

月とあまのこゝろ
うはくふをたふさむ
うはくふをたふさむ

幸ふとあまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

さるものつらき世にうらむるは
ゆきしとて知らぬ
わらわの世にうらむるは
わらわの世にうらむるは

新編かえに

谷月や少むりわらわの世にうらむるは

けこり何の世にうらむるは
世とわらわの世にうらむるは
後の世にうらむるは
うらむるは
わらわの世にうらむるは

さるものつらき世にうらむるは
ゆきしとて知らぬ
わらわの世にうらむるは
わらわの世にうらむるは

わらわの世にうらむるは
わらわの世にうらむるは
わらわの世にうらむるは

あはれにうらむるは

わらわの世にうらむるは

しつちかひにほふあまのこしつちかひのつねなる
まじあつちかひにほふあまのこしつちかひ

まにまに

あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ

湯尾

あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ

輝山

あつちかひにほふあまのこしつちかひ

あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ

演

あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ
あつちかひにほふあまのこしつちかひ

月下の送別

月夜や物さうらうの心シテの情
思ふに市井にさうさうと
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと

谷りや酒をとりさうさうと
乃え縁のなかへんといふ
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと

ちりちりちりちりちりちりちりちり
心仲をさうさうと

二井寺のつとむりやの月

賈嶋が詩僧敲月下門とて
妙月をさうさうと
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと
さうさうとさうさうと

坊のさうさうとさうさうと

まろむいし角に紙をうらなう作らぬと
あしたりししきと書紙をみし
さるお海に紙の紙さる紙ととの
かひさるしん

戸をさしけい西にさり伊吹
ししぬ花もよみおに
しん紙をこれ紙の紙あり

さほし月したの師 伊吹山
ふらぬししししし

伊吹の山中にさるししし

名月しぬしぬのさる田のさる
さほしぬしぬししししし

廿二句後さるみのしん紙を紙らとはは
しししししししししししししししし
のさるししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
ししししししししししししししししし

虫

いささか〜
ふりしお〜
あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

あ〜
あ〜
あ〜

らふとんわふにひのまふし物たふ

鳥

田中代は花も

刈はしむ早拾ふの

早拾ふる刈はしむ早拾ふる

世田

病の雁のふらふらとる

やまおあせあつしに市は

るかたわらんとあつし

てあつし力あつし
まひいひあつし

相のあつし新あつし

あつし相のあつし

る田あつし

新あつし相のあつし

あつしあつし

あつしあつし

あつしのあつし

新

凡一やぬとわかちる為極く世と信る
此の世極く世と信る一と云ふと云ふ節
さる世極く世と信る一と云ふと云ふ節

菊

菊のをらるるくじろくをぬくこ
菊のをらるるくじろくをぬくこ
菊のをらるるくじろくをぬくこ

心いふに女夜トしむるオロヒレリと終
張るトと終

九月46ののくろくト一終をいふ月
のぬくろくろくト一終をいふ月
のぬくろくろくト一終をいふ月

橋ノのたむしりト一終のたむ
廿四ノのたむしりト一終のたむ
廿四ノのたむしりト一終のたむ

病ノのたむしりト一終のたむ
廿四ノのたむしりト一終のたむ
廿四ノのたむしりト一終のたむ

世にわたりてはつとて
後にはつとてはつとて
後にはつとてはつとて
後にはつとてはつとて
後にはつとてはつとて

草庵乃雨

おあつとてはつとて
おあつとてはつとて
おあつとてはつとて
おあつとてはつとて
おあつとてはつとて

かかえらふ中一草

に中一草
に中一草
に中一草
に中一草
に中一草

に中一草
に中一草
に中一草
に中一草
に中一草

本園

かくれあや
かくれあや
かくれあや
かくれあや
かくれあや

ム反

一体経路ノ山岳セヨ田々味
い斗わ表ニシヨみあめたに本園
大垣のヨクキヤ路のつるれい
かよしヨクキヤ路のつるれい
本園のヨクキヤ路のつるれい
さくせいの後世とキヤ路の
凡路又たのヨクキヤ路の

おさらけ手陽

おさらけ香ニ似やちあらニ似古に佛ニ似

古に佛のヨクキヤ路のつるれい
ヨクキヤ路のつるれい

くくくくく

菊のヨクキヤ路のつるれい
古今の物のヨクキヤ路のつるれい
ヨクキヤ路のつるれい
ヨクキヤ路のつるれい

お柳

お柳のヨクキヤ路のつるれい
お柳のヨクキヤ路のつるれい

凡情ありとありし世情のわづらひの
こころのなほはきりかへし物のかしは

雑波そのあや

白きまの風よたそくりにくさき

廿句よくお仙らう

しるしにノ字をそくくりにまの句を
うきうらら見よさか侘問よまて
唐もろくを舞うるこころ西よ
くわりのに後めうしわきを
いん世といふにやとさかかく

きしあはしこまきあの似るはく
ふーとぬ

又サカ

こころをたをばきんきん
日わのりりか
まのうる

書画

技ゆふのりよ
かきよのあけあ
てい

ふるり

ふるり

様や命紙からいヤウニニ大印ききかつ

ノ如ク

端々所々い合して居るは

わくしとていへるは

甚又とあき

はら

花竹ちうましんを

いふ

畫

新刊の

わく

唐

漢川

ま

わく

ア

ま

さひ〜幸〜お〜

年々庵

あつちのそとをさうや梅あつちのそと

はれたあつちのそとにわたるあつちのそと

作かえら中 二句

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

野分

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

あつちのそとにわたるあつちのそと

おそくもよるに昔の御供養と
ちうす

因行のるるに御供養の

きりりや書けしんまのそふ

そふの御供養に一人よあつりて

かきとけりしふりきりやゆきり

すふとけりしふりきりやゆきり

トあつて遊女も住みし

そふの御供養に御供養の

御供養の御供養の御供養の

のそふの御供養

遊女も住みし

世説の御供養の御供養の

御供養の御供養の

世説曰郭林業毎行而宿逆旅輒躬自

洒掃及明去とけりし御供養の

御供養の御供養の御供養の

御供養の御供養の

あつて遊女も住みし

御供養の御供養の御供養の

位一の事

牛かきを利うる月を

位一の事

位一の事

位一

車一庸方

西多を柱の終る方

柱をよむる終る方

一の目々をんす終る方

あるをきしむる方

竹庵ともつ終る

西葉押一戸はくは竹の事

五穀のうたのけいあむいん

る

え際こそせの柱のあち垣

よむるせのせん

一舟の中はくは

p

物めぬこをよむる

玉くしはぬか

礎

積成を積の少砂体はさめくれば
積をさすものこころは世もはな
るにけし金せんそを成礎うへん
し

入顔の下き記たつる積をさすり
積をさするありきまを成礎うへん
そ積をさするありきまを成礎うへん

歌さるるに

夕の歌 ニテアリ や 花の形 燈をいろの歌 カガリ
うね

古今にみまふるあはれを
あはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ
いふはれをいさるるわ

おくらまらつて送るるの果 サレシキ 身 ニシキ 本 ニシキ 乃 ニシキ の

歌 ニシキ タ ニシキ リ ニシキ 似

忍ぶの恨後泣きもあはれきり
因ゆふさしりるるる

若春のたのきし記と

相節くたのたけくわさるのちね

ン善たし相のまじしあはれくまじし考
しおおとあふまきるうんぬうこくお相の節
くしあはれくは情をん

ゆくたの招きたしやまきさき棟

ゆくちきさきまのころはさるはゆきゆき
みんけしききくそゆいさきのゆき

いんたノ字眼まうまう

あはれやのゆらけける言葉のい

くしあはれをいひなかりしとん

たまたまけしきくまのたのた

善たしきれりたしりるるる
はゆきしりるるるるるるるるる
あはれ

あはれやまじしりるるるるる

あはれくまじしりるるるるる
しりるるるるるるるるるるる



